

No.
101

書 左右津安輝子

「どこか」を 手繰り寄せる

こばやし としあき
理事 小林 敏昭

記憶はおぼろげです。日時も場所も定かではありません。でも断片的な話の内容とそれを語る男性の表情は、今も私の記憶の淵にとどまっています。東日本大震災が発生した2011年3月11日から数日後のテレビニュースでした。一面瓦礫と化した街を背景に30代くらいの男性がぽつんと立って、差し出されたマイクに向かっています。彼は妻と2人の幼い娘が津波にさらわれ、家族の中で自分一人が生き残ったこと、家族の思い出の品を求めて自宅があつた場所の周辺を捜歩いていることなどを淡々と語ります。それから娘たちと一緒に過ごしたころの話を始めました。内容は思い出せません。でもその表情や語り口が、彼が置かれた状況からは考えられないほど冷静に見えて、そのことに私はショックを受けました。3人の子どもの一番下の娘が4歳のときに離婚と別離を経験している私は、そのときの心身のダメージを思い返していました。

私が彼だったら、はたしてこれほど取り乱さずに語ることなどできるだろうかと考えました。ひょっとしたら取材クルーに「こんな時にカメラなんか回すな！」

INDEX

- 01 「どこか」を手繰り寄せる**
- 03 第17回ゆめ風であいましょう「私たちの選挙」**
- 04 100号記念座談会【後編】**
- 06 リレーエッセイ 災害と障害者 第七十四回**
- 08 2022年度確定申告で「寄附金控除」をお考えなら /**

- コロナも災害！ ゆめ風基金は支援します。 / 新人挨拶
- 09 2022年3月 福島県沖地震**
- 10 カンパをいただいた団体 / 事務局のうごき**
- 11 会計報告**
- 12 各地からの風だより**

と掴みかかったかも知れません。そうでなくとも、頭の中が混乱してきちんと相手に伝わる話などできなかつたでしょう。ですから瓦礫の中の男性がとても強靭な精神の持ち主のように見えました。でも、少しして違う考えが浮かんできました。彼は実はどのように語る以外に自身を保つ術がなかつたのではないか、悲しみの総量が限度を超えると、かえつて感情は内深く抑え込まれてしまうのではないか、現場から遠く離れて映像を覗き見ただけの者には、それが冷静そうに見えたのではないかと思つたのです。

私は自分の経験と重ねながら彼の心情を想像しようとしましたが、それは易しいことではありませんでした。別れて暮らすことと突然命を奪われてしまうことの間にはとても大きな落差があります。そこには二人称（身近なあなた）と三人称（どこかの他人）の死という二つの死の違いが厳然と存在しています。

突然で理不尽な災いは自然がもたらすものに限りません。ウクライナをはじめアフガニスタンやシリアやミャンマーなどに見舞われた共同体の一員として、もし

どで争いが続き、夥しい数の難民が生まれ、幼い子どもが飢えで命を失つています。世界はそれら三人称の死や困難に満ちています。その一人ひとりに自分を重ねて悲しんだり憤つたりすることなど、とてもできません。そんなことをすれば、悲しみの総量であつていう間に自分が押しつぶされてしまいます。

しかし、三人称の死や困難を一人称（私）や二人称のそれに近づけようとする努力は決して無駄ではないと思います。作家の平野啓一郎さんが近著『死刑について』（岩波書店）で、死刑存置から廃止に主張を変えた自分を振り返りながらこんなことを書いています。

「三つ目の〈赤の他人の死〉については、私たちは本当のところ、自分のことのように、あるいは、愛する人のことのように感じることができないものです。人間はそういう感受性を備えていないのだと思います。（略）しかし二〇一一年に発生した東日本大震災のように、共同体が大きな悲劇に見舞われると、〈自分の死〉ではなくても、とても心を痛めることがあります。自分自身も、大きな悲劇

命を奪われたのが自分だつたら、肉親などの愛する人だつたらと想像をする。そのことを通じて、意識的、無意識的を問わず、自分自身の問題として手繕り寄せようとし、ことの重大さを感じとろうとします」。（12～13頁）

ここで平野さんは日本という国を一つの共同体と見なしているようですが、その共同体は国に限るわけではなく、地球全体であつたり身近な地域社会であつたりします。一言で「どこかの他人の死や困難」と言っても、その「どこか」は現場から発信される情報の量や質によって遠くにも近くにもなります。大震災の直後、瓦礫の中の男性にマイクを向ける記者にはかなりの勇気が必要だったでしょうが、そこに「どこか」を少しでも視聴者の日常に近づけようという報道する者としての自負があつたのは確かだと思います。この「ゆめごよみ風だより」がこれまで繰り返し被災した当事者の生の声を届けてきたのも、それと重なる想いがあるからでしょう。「どこか」を自分に手繕り寄せるのは簡単なことではありません。でもそれはたぶん人間にしかできません。希望につながる作業だと思います。

写真：吉崎貴之

第17回 ゆめ風であいましょう 「私たちの選挙」

共催：カタログハウスの学校

理事 橘高 千秋



9月3日、小室等さん、大島新さん（映画監督）、ダースレイダーさん（ラッパー）の鼎談と
オオタスセリさんのパフォーマンス、小室さん、こむろゆいさん、河野俊二さんの音楽という陣
容で開催。まず、小室さんの「7月に国政選挙がおわったが、私たちの選挙とは何なのか考えて
みたい」との言葉でスタート。

「東京都知事選を思い出すと、討論会もなく、コロナ対策に取り組む知事としてテレビに出続けた現職の無批判な選挙報道になっていたのでは」とダースさん。自ら各地選挙戦の現場を見て回り YouTube 動画で発信する。

大島さんは「一般選挙では投票終了時に大きく報道するのが常なのに、衆院選前の与党党首選挙の時は洪水のような報道を続けたことで結果的に与党宣伝となっていた。選挙戦を取材していく、有権者の傾向として、同調圧力に弱く少数派になりたくない、威圧的な言葉を発する政治家になびき、誰かに従いたい気持ちが強くなっていることがとても切ない」と話す。

ダースさんは「国民に十分な情報を伝えずに、何かを決めさせるというのは一番の問題点だ」と語る。「岸田政権発足時の支持率60%に驚いた。政策を判断するのではなく、何となく良さそうだから支持するという意見が多いのはどうなのか」と。それを受け小室さんは「その先に、自分たちはどんな世界に住みたいかというものがなければね」。

後半は小室さん、ゆいさん、河野さんによる音楽の時間からスタート。映画「獄友」の主題歌「真実・事実・現実あることないこと」、そして「だれかが風の中で」。さすがの渋さにうっとり。

続く鼎談「ドキュメンタリーとエンターテインメントの狭間で」。「作品は後世の裁きを受ける宿命。政治や行政も同じで常に後世に検証されるという覚悟が大事だ」、「言葉と歌は違う。歌うときに言葉とは限らないものが歌に乗り移る」などの印象的な話が続々。

フィナーレは、小室さんの音楽に乗せて、ダースさん圧巻のラップ。牧口さん、戸田代表が話した子ども時代の三角ベース野球のルールづくりに着想し即興で披露。「帰れ帰れとすぐに人は言うけど、帰る場所はあるのか?」「俺たちはどこに行くのか?」などの劇的な言葉に「涙腺決壊」が相次いだ。ダースさん談・・基本的に困ってる人がいたら助ける。それができていたのなら帰る場所はそこだ。「お前が打って、俺が走るよ」そういう場所があったなら、そこに帰るべきだと思った。

このイベントを企画してくれた神尾 京子さんが急逝されて、悲しみに暮れています。
いよいよありがとうございました。天国でゆっくりたのしく、そしてゆめ風も見守ってください。
牧口 一二

100号記念座談会 [後編]

ゆめ風基金の機関紙「ゆめごよみ風だより」が前号で100号を迎えました。

今回、発足のきっかけとなった阪神淡路大震災当時のことを知る3人にお話を伺いました。

今回は前号に続く後編です。

八幡・ゆめ風基金が一番会員数を伸ばしたのはカタログハウス社の『通販生活』。永六輔さんと牧口さんの対談が掲載されて、読者からの反響が大きくカンパが増えた。

牧口・対談は山田太一さん、筑紫哲也さん、藤本義一さんと続いた。この企画は編集部の神尾京子さん。その後の東京イベント「ゆめ風でいいましよう」につながった。

八幡・当時の話に戻りますが、今は神戸でも震災を知つていい人が少なくなってきて…廻る人が少なくなってきて…廻

さん、どうですか？

嵐・寂しいけど、震災後にゆめ風基金が発足して「10億円が目標」、これはすごいと。稻本：一万円くれる人を10年で10万人。「10年くらいすぐや」。それはすごく覚えていきます。振込用紙のついたりフレットが配られたり。いろんな人が協賛している力セツト、あれもよく活用しました。

牧口：あのカセットづくりはラジオ好きの永六輔さんは発案で、「関西の芸人の声を拝借してこい」と。でも簡

单にはいかない。桂米朝さんはじめ、NHKに出演中の笑福亭仁鶴さんや上沼恵美子さん、オール阪神・巨人さんなどの楽屋を訪ねて、ボクが書いた趣意書の数行ずつを読んでもらったわけ。それをつないで一本のテープに。永さんの名前があつたので完成したようなもの。

八幡：いろんな人たちの支援があつてなんとか「億」を超えるお金がプールされるようになり、海外にも救援金を送るようになりましたよね。

時目

2022年7月12日(火)

場所

拓人こうべ

元は被災地障害者ヤンター

参加者

屈 裕之

淡路島出身。実家は全壊。震災当時は大学生で大阪住まい。1996年より被災地障害者センタースタッフ。現在、神戸市長田区にて車いすで自立生活中。

稻本 須磨子

いなもと すまこ
広島県出身。1995年4月から
被災地障害者センター（後に「拓
人こうべ」）でボランティア、そ
の後スタッフとして活動。現在、
介護事業所「たくと」職員とし
て働く。

牧口一二

まきぐら いらし
前ゆめ風基金代表理事

司会

八幡 隆司

はた たかし ゆめ國其全車路尾

稻本さん

風さん



牧口・当初は阪神淡路のこ

としか考えてなかつたけど、「億」を超えるとね、災害は外国でも起ころでしょ。その国にも障害者がいるわけで、知らん顔でへんなあ、と。

これがホンマの国際化！

八幡・そうこうするうちに、2011年の東日本大震災。基金も少くなつてきて。

牧口・この時から近畿ろうきんが定期預金者に呼びかけて利息の半分を提供してくれて1億円ほどになつた。東の力タログハウス、西の近畿ろうきんというわけ。

八幡・ところで支援のありかたについて思うことなどありますか？

稻本・今は介護派遣もやつてるので、日々で精一杯。だからお金を渡すしかない。東北の時は「ゆめ風基金に連絡を」ということで通信を発信したりして、反応があるとつなげるとか。そんなことしか

できませんでした。

八幡・それは感謝です。で

も本当は個人支援ですよね、困っている個人を作業所を通じてどう支援するか。

風・制度の狭間の人たちはやっぱり、支援からこぼれてしま

います。団体などがどこまでつかめているかが問題です。

稻本・災害が起きて困っている人って普段から困っている人。災害が起きて目に見えてきたというのは、1995年地震から変わりないテーマですよ。

風・だから作業所とも他ともつながつていない人、そういう人を何とか見つけてどう支援していくのか、そこが問題。

八幡・当時、神戸は自立している障害者がとても多かつたと思います。どのように支援していましたか？

稻本・ボランティアを集めていましたね、県外からきている人も。でも県外の人はすぐに去ってしまうので、ある時から地元のボランティアを集め

稻本・ボランティアを集めていましたね、県外からきている人も。でも県外の人はすぐに去ってしまうので、ある時から地元のボランティアを集め

牧口・緊急時と平時とは分けないと、分けにくいだろうけど、ゆめ風の場合は緊急時の対応で、それに絞つて考え

稻本・大阪市従業員労組の人たちが「人と人のつながりはフ

イフライン」と打ち出してくれましたけど、まさにそうやと。

風・僕もそう思います。ゆめ

風があつて、今の自分があるから。あの時に作業所とかいろいろ回つたところから続いているんやなあ、と。たまに電話しても「ああー風さん」って言つてくれたり。

八幡・結成当時の話を聞いて初心を大事にしようと思いました。今日はどうもありがとうございました。

リレー・エッセイ 災害と障害者 第七十四回

障害者権利条約 総括所見



尾上 浩一
現在、DPI（障害者インターナショナル）日本会議
副議長、内閣府障害者施策アドバイザー

今年8月22～23日に、障害者権利条約に関する国連による日本の審査が行なわれました。審査に当たる委員に日本の障害者の実情を伝えるために、日本から100名を超える障害者や家族、弁護士がジュネーブの国連事務所に赴きました。私も委員からの質問に答えたり、政府回答への反論情報等を提供しました。

それだけ日本の課題は山積みということです。権利条約の第1条～33条の全ての条文に渡って、「懸念すべき事項」と「勧告」が盛り込まれています。

特に、委員会が緊急性の高いテーマとしているのは、脱施設（精神病院も含む）とインクルーシブ教育です。施設閉鎖も視野に入れて予算・人材・サービスを地域に重点的に振り分け、施設・病院からの地域移行が進む仕組みの創設を求めています。分離教育を中止しインクルーシブ教育の権利を実現していくような国の計画をつくること、地域の学校を希望した場合に入学拒否できないようにすること、合理的配慮が得られるようになること、そして先生達がインクルーシブ教育について研修することも求めています。

これらの勧告に至るやりとりで、とても印象に残るシーンがありました。

相模原障害者殺傷事件を経て、このような施設で暮らす人が多いことについて考え直したことはあるポイントを紹介します。

1960年大阪に生まれる。子どもの時から脳性マヒの障害があり、小学校を養護学校、施設で過ごした後、普通中学・高校へ進む。1978年大阪市立大学に入學後から障害者運動に関わる。1995年阪神淡路大震災時には障害者救援本部の一員として活動。

現在、DPI（障害者インターナショナル）日本会議副議長、内閣府障害者施策アドバイザー

障害者権利条約の審査とは？

地域で共に学び、暮らしおこなう、働くインクルーシブな社会づくりを求めている障害者権利条約は

2006年に国連で採択されました。そして、日本は、障害者差別解消法の制定などを経て2014年に障害者権利条約を批准しました。「この条約を守ります」と国際的な約束をしたことになるので、条約に書かれている内容を守り実施していく責任があります。しかし、未だに多くの障害者が入所施設で暮らさざるを得ない状況にあります。精神病院も世界一のベッド数で多くの人が長期入院を強いられています。特別支援学校、特別支援学級で学ぶ子どもも増加の一途を辿っています。条約が求めている内容とはほど遠い状況です。

障害者権利条約を各国に守つてもらうようにするために、国連の障害者権利委員会が審査をする仕組みが設けられています。政府からの報告と、障害者団体などからの報告を見比べながら、委員が審査する仕組みです。そして、その結果を元に、成績表にあたる総括所見が出されて、政府はそれを受け改善していくことが求められます。

脱設、インクルーシブ教育など インパクトある総括所見

日本政府への総括所見は全文75の題目、18ページと、他の国に比べても詳しい内容になっています。

か。今後どのような資源配分を行うのか、脱施設化、地域への移行をどう推進していくか？」

知的障害当事者のロバート・マーティン委員からの質問でした。彼自身子ども時代につらい施設入所の経験があり、ピープルファースト運動を通じて2006年にニュージーランドの施設閉鎖を実現した人です。私たち日本の障害者の声が届き、日本社会の問題を鋭く突かれた瞬間でした。しかし、政府からの回答は「日本の施設では花見のシーズンには、施設の外や中で桜を見ることができる」といった的外れなものでした。

こうしたやりとりを通じて、日本政府に対して根本的な変革を求める必要性を委員が感じ取った結果が、総括所見の内容に反映されたのでした。

他にも、優生保護法の全ての被害者への謝罪・賠償や障害女性・子どもの複合的差別撤廃に対する取り組み、国内人権機関の創設や障害者政策委員会の強化といったことを勧告しています。また、防災についても、「危険な状況や人道的緊急事態において提供されるシェルター、仮設住宅、その他のサービスが、年齢や性別を考慮した上で、利用しやすく、障害者を含むものである」ようにすること等を求めていました。

どの項目を取つても的確な指摘と力強い勧告が述べられています。総括所見を追い風に、誰もが安心して暮らせる地域社会をつくっていきましょう！

重要

2022年度確定申告で 「寄附金控除」をお考えなら

クレジットカードでのご寄付——領収日について

2022年度の確定申告で「寄附金控除」をお考えの方にお知らせです。クレジットカードでご寄付をいただいた場合、領収書の日付はクレジットカードでの決済日ではなく、寄附金が「カード決済代行会社」からゆめ風基金へ入金された日付となります。原則、月末までの決済は翌月20日に当基金へ入金されます。

2022年12月1日以降にご寄付を頂いた場合、領収書の日付は2023年1月20日となりますので、確定申告で寄附金控除をご希望の方はご注意くださいようお願いいたします。(クレジットカードによる2022年12月の寄付金控除手続きは2023年ではなく2024年になります)

2022年12月付けの領収書をご希望の方はお手数ですが「郵便振替」にて、12月30日中にお手続きくださいようお願いいたします。

コロナも災害！ ゆめ風基金は支援します。

以前にもお伝えしていましたが、ゆめ風基金では新型コロナ感染により、運営に支障をきたした場合にも、自然災害による被災をした場合と同等に扱い、支援を行います。

対象となるのは新型コロナ感染によって事業収入が減少し、運営が困難になった障害者事業所です。

救援金の申請については、ゆめ風基金のホームページより、「障害者防災」のページを開いて、そこにある「救援申請書」をダウンロードのうえご記入いただき、メール、FAX、郵送等でゆめ風基金までご送付ください。

ご不明な点がある場合はメールか電話で直接ゆめ風基金までお問い合わせください。

新人挨拶

初めまして。9月よりゆめ風基金の事務局スタッフとなりました植野 加代と申します。
前職は、大阪市内の障害福祉事業所（就労系）のスタッフとして働いておりました。
今後は、今までに培った繋がりや経験を活かす事が出来ればと思っております。至らぬ点もあると思いますが、何卒よろしくお願ひいたします。

2022年3月

福島県沖地震

天災へ絶命な「ハモー
ませねどー

ゆめ風基金

(社福)あおぞら
障害福祉サービス事業所もぐもぐ
施設長 諸橋悟 「仙台市」



2021年2月13日の宮城と福島で最大震度6強の地震に続く、今年3月16日の地震で、大事な調理器具、IHヒーターとオーブンが落下・破損し、使用不能となつた。運営厳しく、捻出できる金もなく、途方にくれた。友人N氏の勧めで、「ゆめ風基金」にSOS。お助けを頂き、たいへんありがたく思っています。

東日本大震災では、出先から戻った職場の外で、利用者の父親のワンセグ（携帯テレビ）で、海岸沿いの津波を震えながら呆然と見た。寒かつた。身近な友人、知人や

2021年2月13日の宮城と福島で最大震度6強の地震に続く、今年3月16日の地震で、大事な調理器具、IHヒーターとオーブンが落下・破損し、使用不能となつた。運営厳しく、捻出できる金もなく、途方にくれた。友人N氏の勧めで、「ゆめ風基金」にSOS。お助けを頂き、たいへんありがたく思っています。

東日本大震災では、出先から戻った職場の外で、利用者の父親のワンセグ（携帯テレビ）で、海岸沿いの津波を震えながら呆然と見た。寒かつた。身近な友人、知人や

私どもが入っている建物は、1979年竣工で、43年前の建物。鉄筋コンクリートではあるが当然ボロボロ。度重なる余震の揺れも大きく、天井からコンクリート片が落ち、雨漏りもしている。市の建物であるが、後付けのエレベーターは11年前に地震で壊れ、修理費用もなく多額の負担になると直していない。その建物が、余震で、幾度となく揺さぶられ、傷みも進行している。その中で、18年前から、相談支援事業所「てれんこ」と、喫茶とシュークリームの製造販売をメイン作業としている障害福祉サービス事業所「もぐもぐ」を運営している。

利用者を亡くした。大地震の自然がもたらした負の体験は、ちょっとの揺れにも怖気づいてしまうようだ。福島県沖の地震も怖いものだつたが、奮い立ちもしたような？

このような大災害を「乗り越えて」、私どもの今日がある。

が必要だと考えている。とりわけ、旧態依然の社会福祉法人の衣を着た私どもこそが、問われるべきである。仲間と共感をしあう、自立的で、自由な、幅を持った助け合い、相互の支えあいが必要だと考える。今回のゆめ風基金の支援は、そうした温かみとやさしさを頂いたものと思う。今後、約束はできないけれど、いつの日か、こうしたメッセージを私たちも皆さんとつながりつつ発表することができたらと思っています。

重ね重ね、ありがとうございました。

東日本大震災では、出先から戻った職場の外で、利用者の父親のワニセグ（携帯テレビ）で、海岸沿いの津波を震えながら呆然と見た。寒かった。身近な友人、知人や

カンパをいただいた団体**2022/07-2022/09**

お店に募金箱を置いてくださったり、街頭募金やバザー、イベントで集めてくださったりしています。

本当にありがとうございます。もしも記載漏れがありましたら申し訳ありません

7/1	バルすみのえ（大阪市）	8/22	岡山マインド「こころ」（倉敷市）
7/5	すまいる作業所（仙台市）	8/24	FMG（港区）
7/6	坪井令夫商店（名古屋市）	8/29	なごみ薬局（松山市）
	さんりく・こすもす（大船渡市）	9/2	ABC研究所（北九州市）
7/9	本多企画（オオタスセリ）	9/14	バリアフリーコンサート企画
7/11	ネットきくがわ（菊川市）	9/15	和太鼓蓮うてな（東京都）
7/20	坂町心身障害児者ゆずりはの会（安芸郡）	9/16	いーはとーぶ（さいたま市）
8/4	東大和障がい福祉ネットワーク（東大和市）	9/26	得雄寺（南松浦郡）
8/5	関西学院千里国際保護者会（箕面市）	9/27	柴山治療院（坂井市）
8/16	みのおチャリティコンサート実行委員会（箕面市）	9/29	レインボーアグリ（西予市）

事務局の動き

2022年7月から9月の動きを一部ご紹介します。

毎週月曜日	事務局会議	毎週金曜日	WEB 変更に関する会議
7/1	茨木東雲中学校講演	8/25	豊中サポートネットワーク講演
7/7	「永さん！七月七日七回忌 永さんと戦争と平和」参加	8/26	認定NPO法人更新のための大阪市調査
7/11	Fridays For Future Tokyo 取材	8/30	OSN 要援護者部会
7/12	100号記念対談収録	9/1	日本福祉のまちづくり学会参加
7/17・24	障害者防災リーダー養成講座収録	9/3	ゆめ風で会いましょう in 東京開催
7/19	中学生プロジェクト打ち合わせ	9/3	障害者政治ネットワーク参加
7/20	理事会	9/4	眼の会講演（明石にて）
7/22	おおさか災害支援ネットワーク(OSN)定例会	9/10	茨木市長寿介護課講演
7/23	重度訪問介護サービス利用者等介助助成金勉強会	9/11	脊髄損傷者協会近畿東海ブロック大阪大会講演
7/27・8/24・9/28	BCP（事業継続計画）研究会	9/14・15	通信100号発送
7/28・8/31	ポジティブ文化交流祭打ち合わせ	9/21	通信101号編集会議
8/18	大阪大学取材	9/23	水城高校インクルーシブ防災教育プロジェクト
8/24	新職員面談	9/26	OSN 物資部会

NPO 法人 ゆめ風基金 会計報告 ただいまの基金額 313,389,984 円 貸付金の残高 0 円
 これまでの救援金・救援活動費総額 577,965,515 円 総会員数 14,336 人

		前回報告残高	この 3ヶ月の動き 7月から 9月まで	今回報告残高 2022 年9月現在
収支計算書	収入の部	会費収入	6,475,481	3,025,795
		寄付金収入	6,161,830	4,834,975
		臨時寄付金収入	2,301,032	180,000
		助成金収入	298,280	147,420
		事業収入	414,069	386,655
		雑収入	156,018	77,152
		貸付金返済収入	0	0
		保証金返済収入	0	0
		預り金収入	792,763	396,023
		未収入金収入	0	0
	支出の部	未払金収入	0	0
		合計	16,599,473	9,048,020
		救援金支出	1,058,300	3,323,490
		救援活動支出	0	0
貸借対照表	資産の部	貸付金支出	0	0
		基金拡大活動支出	180,663	461,897
		防災活動事業支出	256,700	164,514
		広報活動事業支出	840,773	588,994
		その他事業支出	529,920	255,640
		人件費支出	5,337,847	2,468,403
		その他事務費支出	3,297,350	1,676,106
		預り金支出	779,251	504,835
		未払金支出	286,720	0
		固定資産購入支出	0	0
	負債の部	保証金支出	0	0
		合計	12,567,524	9,443,879
		差引：収支差額	4,031,949	△395,859
				3,636,090
	負債の部	基金特別会計預金	312,450,712	939,272
		一般会計現金預金	3,596,219	△1,335,131
		[現金預金合計]	316,046,931	△395,859
		障害者貸付金	0	0
		有形固定資産	926,162	0
		その他の資産	1,315,874	0
		合計	318,288,967	△395,859
		未払金	0	0
		預り金	251,547	△108,812
		その他の負債	0	0
		合計	251,547	△108,812
		差引：正味財産	318,037,420	△287,047
				317,750,373

脚注 1. 今回は 6 月から 9 月までの3ヶ月間の報告です。
 2. 救援金は2件の支払いがありました。
 3. その他は特に大きい変動はありません。

4. 前号で会計報告に誤りがありました。貸借対照表・負債の部・その他の負債と合計が間違っていました。今号で訂正しています。申し訳ありませんでした。

災害別の救援金総額 以前に他の災害でお届けした救援金はゆめ風 WEB サイトとブログに掲載しています

東日本大震災

344,779,224 円

2016 年熊本地震

55,598,387 円

2018 年西日本豪雨

45,164,095 円

2022 年福島県沖地震

3,456,790 円

そよ風、つむじ風、六甲おひこ

各地からの風だより

2022.7 - 2022.9

2022年もあたたかいご支援、本当にありがとうございました

▼東北へ（清瀬市他数人）▼少しでも穏やかにそして幸せを感じられる世界になることを切に願っております（石巻市）▼無理と言われていなかった障害年金を受給できるようになります。わずかですがお送りします（大阪市）▼7月7日、永さんの7回忌ですね。いつまでも繋がっていたいです。今の世を、何とおっしゃるでしょうか（川崎市）▼畠は雨が降らないので赤いぞが口差しで強く焼けました（伊達市）▼88才の記念に心ばかりです（佐伯市）▼物価こんなに上がり、何故年金が下がる（静岡市）▼永さんの七回忌レーヴからです。▼主人88才私80才になります。永さんの、みちのくシャツで歩きそれなりに元気です。皆様お体大切に（小金井市）▼遅くなりましたが石川県へ（さいたま市）▼人道的支援を！初心（基本）を忘れずに（東大阪市）▼ウクライナ戦争の一日も早い停戦を願っています（静岡市）▼現在は地震多発、水害も多発、ゆめ風の存在が増々重要と痛感です（尼崎市）▼身体障がいの方のお手伝いをしていますが、周りからは「金を貢っているのか」とばかり言われます。この風潮はどうにかならないのか？（町田市）▼北陸・東北の水害ひどくて胸が痛みます。しかし報道が少ないように思うのは気のせい…？（豊島区）▼7・31箕面、8・1京都でのコンサートの収益金です（箕面市）▼ゆめ風基金の活動、楽しいです（大東市）▼私、9月にじがん手術します。生きている限り、

送り続けます（世田谷区）▼体調悪くて自宅入院です。少額ですみません（習志野市）▼おだやかな日々を！祈らずにはうられません（杉並区）▼平和がありますように、支え合えますように（川崎市）▼80才過ぎました。暑さ・コロナ、こたえます。ほんの少しだけ、お役に立てほしいです（海部郡）▼「第17回ゆめ風でいましよう」本当に楽しかった。小室等さん、ゆいさんの歌をもう少し聴きたかった（川崎市）▼切手代です（斜里町）▼とにかく続けること、楽しみながら続けること。これが大事!!（奈良市）▼杉本章さんの詩、いいですね（中津市）▼コロナ禍の中奮闘しておられる医療職、作業所職員に感謝しています（高槻市）▼昔、牧口さんの足にさわった子供達が「あたかい！」と驚きました。生きているんだよ動かなくとも。と言われたのが印象的でした（大竹市）▼通販生活で知った「ゆめ風基金」。これからも細々と応援させて下さい。年金暮らしで少しですが（船橋市）▼関東豪雨の被害から7年がすぎました。忘れないためにも送金させていただきます（常総市）▼大変なことが沢山有りますが、笑顔を忘れない、何気ない日常を守っていきたいですね（八尾市）▼100号、熱く重みのある内容でした（横浜市）▼戦争なんて何ひとついいことなんかありやしない（武藏野市）▼あたたかなバトンが次々に手渡されて笑顔がいっぱいひろがりますように（大阪市）

ゆめ風ブログ (<https://yumekazek.com/blog/>) にも掲載しています

編集後記

今年も、大変お世話になりました。2022年も災害の多い年であり、更にはロシアのウクライナ侵攻にもショックを受けました。彼の地の障害者はどうしているだろう、と気になります。いろんな課題を抱えたまま新年を迎えるが、みなさまにとって2023年が良き年でありますよう、事務局一同心からお祈りしています（長崎）

ゆめ風ネットワーク連絡先 [faxは06-6321-5662迄]

さっぽろ 011-817-9080 秋田 018-846-3916 みやぎ 0220-44-4171 いわき 0246-68-8925 新潟 025-232-7522 三条 0256-34-2448
 JDS(東京) 03-6907-1824 東大和 042-567-2622 立川 042-525-0879 横浜港北 045-431-4070 千葉 047-485-1245 埼玉 048-738-4593
 上田 0268-39-4568 静岡 054-288-6068 きくがわ 0537-35-8303 愛知 052-841-9888 名古屋 052-745-1001 岐阜 058-388-1864
 加賀 076-243-6786 富山 076-444-3753 福井 0776-52-6464 三重 059-202-5782 滋賀 077-543-2844 JCIL(京都) 075-671-8484 奈良 0745-42-2919 和歌山 0734-72-6731 伊丹 0727-79-1771 ひょうご 078-642-0142 はりま 0792-84-4668 淡路島 0799-70-6145
 明石 078-913-5315 しまね 0854-83-2183 かがわ 0877-73-4177 愛媛 089-924-8533 まつやま 089-986-3245 今治 0898-54-4365
 徳島 088-602-1003 岡山 0866-97-0206 ひろしま 082-294-4185 尾道 0848-38-9551 やまと 0833-76-0550 福岡 094-962-6003
 大分 097-597-5315 宇佐 0978-32-3365 ながさき 0957-46-3858 謙早 0957-28-3800 さが 0952-74-4568 熊本 096-366-3329
 みやざき 0985-31-4800 かごしま 0994-63-8855 沖縄 0988-90-4890